

## 今週のメニュー

## ■トピックス

◇環境展示会“エコプロダクツ2012”に6年連続出展

ー出展コンセプト：PVCは環境特性に優れたエコ素材！ー

## ■随想

◇びっくり闘病記（その7）ー回復に向かいー

関東学院大学 織 朱實

## ■編集後記

## ■トピックス

◇環境展示会“エコプロダクツ2012”に6年連続出展

ー出展コンセプト：PVCは環境特性に優れたエコ素材！ー

昨年の12月13日から15日までの3日間、エコプロダクツ2012（日本経済新聞社、(社)産業環境管理協会主催）が、東京ビッグサイト東ホールで開催されました。今年の出展者数は711社・団体、入場者数は、約18万人となりました。

6年連続出展となる今年は、「PVC！環境特性に優れたエコ素材」と題して、塩ビが未来へ選択されるべき環境素材であることを訴えました。



ここで、ご来場頂けなかった方々へブースと展示品を簡単にご紹介いたします。今年も、床材はもとより、波板の壁、直径300～600mmの塩ビパイプを展示台、パネル掲示用として使い、オール塩ビ製のブースとしました。

入口となる波板円筒ドーム内には、4つのコーナーを設けました。まず「社会インフラを支えるPVC」と題し、電線、各種パイプの他、老朽下水管の更生法をパネルと模型で展示しました。また、「PVCは持続可能な社会に貢献しています」のコーナーでは、43～53年間埋設管展示で長寿命を、農業用フィルム、パイプのリサイクル工程品を使った棒グラフでは、塩ビのリサイクル率が高いことを示しました。被災地宮城で回収されたパイプを再生した「宮城パイプ」が復興に役立っていることも紹介しました。さらに「豊かな生活を演出するPVC」コーナーでは、ブーツや医療用パック、カード類、ファッション性の高いバッグなどを、「PVCは省エネで快適な住環境を提供します」コーナーでは、樹脂サッシ、サイディングの貢献ぶりを紹介しました。



波板ドーム中央では「パネルをめくって塩ビをもっと学ぼう」として、ベント管のパネルでPVCが幅広い用途で使われていることを説明しました。

ドームを抜けた位置の「PVCの新しい展開」コーナーでは、PVC Design Award 2012の入賞作品、産学協同作品を展示しました。PVCのさらなる可能性を感じていただけたと思います。



今年は、理科教育コンサルタントの小森栄治さん（写真右）が、会場内エコツアーの「素材の力で未来を変える」というテーマで、当ブースを取り上げられました。時間をかけた、丁寧で分かり易い説明により、約200名のツアー参加者に塩ビの環境特性と、それを活かした製品がどのように使われているかなどを説明してくださいました。ツアー参加者が熱心にメモをとっている姿が印象的でした。

ブース内を廻っていただくためのクイズラリーを今年も実施しましたが、思いの外ノベルティのエコカイロ（何度でも再使用が可能で表皮が塩ビでできているもの）が人気を博し、子供達だけでなく大人の方にも喜んでいただきました。回答用紙は「Wish Card」も兼ねており、エコに対する参加者の想いを一言記入していただくこととしましたが、実に9割以上の方が記入され、「Wish Board」にかけていただきました。

塩ビの波板をブースで使うというのは斬新なアイデアで、多くの注目を集めるものとなりました。優れた建材ですが、使い方によりデザイン性も発揮できることを示すことができましたと思います。昨年の展示ブースのパイプは、多摩川のお魚シェルターに再利用していただきましたが、今年は、この波板を魚の遡上を助ける魚道として使うことを提案していただいています。ブースパーツがリユースで自然保護のお役に立てることは嬉しいかぎりです。

## ■ 随想

### ◇びっくり闘病記（その7）－回復に向かい－

関東学院大学 織 朱實

新年あけましておめでとうございます！

（この記事が掲載される頃には、松の内も終わり、少し間が抜けた挨拶になっているかもしれませんが）今年も宜しく願いいたします。この闘病記も、7回目ですが、メルマガ愛読者の方からは、昨年は委員会や講演会等思いがけない場所で、「先生、もう大丈夫ですか？」「闘病記読んでびっくりしました」と声をかけていただき、本当に嬉しかったです。手術がついこの間のように思ったださっている方も多いのですが、手術はもうほぼ1年前で、今はすっかり元気です！ということで、「その7」は回復期の様子です。

さて、大変な術後の一晩を経験したあとは、有難いことに翌日から嘘のように体が楽になっていきました。主治医の先生がおっしゃっていたように、「外科手術は、内科の病気と違って、悪いところだけとってしまえば、あとは楽！楽！」（実は、そこまで簡単なものでもなかったのですが）だったようです。

手術の翌日は、脊髄腫瘍摘出手術という大手術をしたのにもかかわらず、

「そんなに翌日から起き上げる人いませんよ」

「血液検査も、驚くことに全部正常範囲内です。20代でも、めったにないですよ」と言われた優等生病人でしたが、術後2日目から右手の痺れが出始めました。

手術前に先生から、「腫瘍の発生している場所が右寄りなので、リスクとしては右半身に後遺症が出るかもしれません」と言われていたので、来たな、という感じでしたが、この痺れは退院後も継続し、PC打つのは平気なのですが、意外と日常生活の細かいところに力が入らず、コロッケを作るのにじゃがいもをスマッシュできない、プラスチックパックを開けられない、箸をきちんと使えない（ナイフ・フォークよりお箸のほうが力があるんです）等々、不便が生じ始めました。はじめて、高齢者の方が、PETのふたを開けるのに苦労なさる気持ちが分かりました。このまま「右手が使えなくなるかな？」と、左手で字を書く練習を始めたりましたが、麻痺もひと月経過する頃にはおかげさまでなくなりました。先生曰く、「水がたまっていたのが急になくなって、脊髄内の圧が変化したことによる不調でしょう。医学的には、良く説明できないのですが、手術をなさった患者さん皆さん術後しばらくは麻痺を経験し、大体の患者さんがその後時間の経過とともに取れていっていますね。脊髄が、水がなくなった状態に慣れていくのでしようね」ということでした。

痺れ以外は、極めて順調な回復だったので、術後は本当に快適な入院生活でした。



雨の高尾山、落ち着いた雰囲気の中、紅葉の紅葉

看護師さんが日に何度ものぞいて「何か、困ったことありませんか？」と声をかけてくださるのですが・・・

こんな**三食昼寝つき**、**上げ膳据え膳**、文句言ったら罰があたります、という感じです。なんにしても、術後2日から退院まで、鎮痛剤さえ飲めば病院は**パラダイス**！

看護師さんは美人揃いで、明るくお話し好き。お見舞いも皆さんには、リクエストでめったに食べられない美味しいものを持ってきてくださる（内科の病気と違い、食事制限もないので）、娘から、「ママ、みんなから寝ているだけで、ちやほやされて、美味しいものもってきてもらって、天国でしょう？」と言われましたが、本当に！退院するときは、「あと一週間くらいいいさせてくれてもいいのに」という感じでした。

退院してから、急にがっくり疲れがでたりしたのは、看護師さんや先生の前で少し見栄を張っていたのが家で緊張が解けてしまったからかもしれません。体力は回復していったのですが、退院し、社会復帰して直面した問題は「(日本の)**交通機関が、病人にやさしくない**！」現象でした。転ばないかな～、人とぶつからないかな、滑らないかな、とどきどきしながら、東京の街中を歩くのは結構神経を使いました(転んで術痕が開いたりしたら大変なので)。私は、見た目、本当に普通～でしたので、周りが特に配慮してくれなかったのでなおのこと。一番怖かったのは、ものすごい勢いで、駅構内を走っている小学生の集団。元気な時は、「元気ね～、可愛い」ですが、「もし、転んで頭うったら大変！」と不安を抱えていると、彼らはもう「**走る凶器**」に見えましたね。

「廊下を、走らない！」標語って本当に意味があるんだ、と(今更ですが)思いました。とはいえ、少し外出すると家でぐーぐー寝てしまう、状態がしばらく続き、ある朝目が覚めたとき、「あ！体が軽い」と。元気に見えて、やはり体は弱っていて、日の経過とともに徐々に回復していったのですね。「日にち薬」、というのは、本当なんだ、と実感しました。

元気って、有難いなと改めて感じさせてもらった回復期でした。



立ち込める霧の中の紅葉



突然現れる極彩色の山伏の集団



さて、次回はいよいよ入院してわかった「病気になるとどれくらいお金がかかるの？」に関する話題です。写真は、秋の高尾山の紅葉。高尾山も、ミシェラン認定されてから観光客が激増で紅葉時期は大変な混雑状態らしいのですが、私が行った日は幸い？雨で、全く人気のない紅葉の高尾山を堪能できました。

詳細は、[ブログ](#)で！

⇒ [バックナンバー](#)

## ■ 編集後記

先週日曜日に深川七福神に始めて参詣しました。深川には清澄庭園の南北に渡り七福神が三つの神社と四つのお寺に祀られており、東京の七福神として有名で、徒歩約2時間で回れます。当日はツアー客風の団体さんが大勢訪れていました。門前仲町にある富岡八幡宮の恵比須神から深川神明宮の寿老神へと巡り、家内安全、富財、長寿の願いをし、色紙には各七福神のご朱印をいただきました。特に、恵比寿様には塩ビ業界の繁栄もお願いしました。皆様には、この1年のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。(ももった)



## ■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL [info@vec.gr.jp](mailto:info@vec.gr.jp)